

1. 参考文献

- ・「日本国勢図会」第62版、矢野恒太記念会、2004年（CD-ROM版も）
- ・「入門国際収支 統計の見方・使い方と実践的活用法」日本銀行国際収支統計研究会、2000年

2. 国際収支の概要

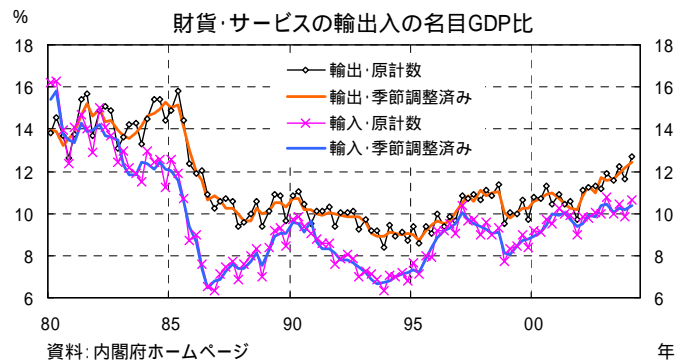
- ・経常収支、資本収支、外貨準備増減、誤差脱漏の4項目で構成。この4項目の合計は毎期ゼロ。

$$\text{経常収支} = \text{貿易・サービス収支} + \text{所得収支} + \text{経常移転収支}$$
 このうち、「貿易・サービス収支 = 貿易収支 （財の輸出入） + サービス収支 」の関係

$$\text{資本収支} = \text{投資収支}$$
（金融債権債務の移動） + その他資本収支
 このうち、「投資収支 = 直接投資 + 証券投資 + その他投資」の関係
- ・複式簿記の考え方で作成（財務省発表）。国際収支統計はGDP統計等と整合的 IMFのルール

3. 財・サービスの輸出の構成

- ・名目GDP比は近年10~13%程度（季調済み）
 振幅の幅は輸入より若干小さい
- ・輸出の主要品目は、機械工業の製品が多い。
 2003年は機械類43.8%、自動車16.3%等
 電機・自動車等では輸出依存度が高い
 1934~36年平均では繊維が57.6%と大半
- ・地域別はアジア49%、北米26%、欧州17%等
 個別国では、米国25%、中国12%、韓国7%
- ・輸出に影響する主要因： 外国為替相場（円安が有利）、 貿易相手国の景気、 日本の景気 等



4. 財・サービスの輸入の構成

- ・名目GDP比は近年8~11%程度（季調済み）・・・GDPの控除項目： $Y = C + I + G + (X - M)$
- ・輸入の主要品目では加工製品も増加中 **水平貿易の割合**（1980年には9割が工業用原料+食料）
 2003年は工業用原料(42.0%等)や食料(11.5%)のほか資本財(27.3%)や耐久消費財(8.7%)も多い
- ・地域別(2003年)では、アジア58%、北米17%、欧州16%、オセアニア5%の順。
 個別国では、中国20%、米国15%、韓国5%、インドネシア4%の順。アジア諸国の経済発展に伴い、製造業が生産拠点をアジア諸国に移管したこと（対外直接投資を実施）が輸入に影響
- ・輸入に影響する主要因： 外国為替相場（円高が有利）、 日本の景気、 貿易相手国の景気、 原材料・燃料価格、 対外直接投資の累積 等

5. 貿易・サービス収支の黒字と貿易摩擦

- ・「貿易・サービス収支」黒字の名目GDP比は近年1~2%で推移（ここ数年、拡大傾向）
 この点、バブルの初期(80年代後半)には4%に達していた 深刻な「日米貿易摩擦」が発生
 その後、円高や海外生産移管、日本経済の停滞などにより貿易摩擦は沈静化（いつまで続く？）
- ・赤字国からは「失業の輸出」「近隣窮乏化策」などと非難されがち 保護貿易を求める動き
 経済学の教える「自由貿易のメリット」とは異なる政治的な保護貿易主義の動き
 保護貿易を抑えるべく、FTAを締結する動きが広がりつつある
- ・実は、貯蓄投資バランスが大きく影響 ... $S - I = (G - T) + (X - M)$
- ・「貿易・サービス収支」の黒字は、対外純資産の拡大につながる
 2003年末時点の対外資産残高は385.5兆円、負債残高は212.7兆円 ... 純資産は172.8兆円
 以上